

へきけんニュース

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



令和2年度『第18回へき地・小規模校教育推進フォーラム』は、12/3と12/17の2回に分けてオンラインで開催します。

詳しい内容は、次ページをご覧ください。

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

【昨年までは、“〇〇年度第一回・第二回”と表記していました。令和2年度からは、平成18年度のキャンパス再編及びセンター再編により、釧路校にへき研センター事務局が移転されてからの通算の回数としました。】

令和2年3月7日に予定していましたへき地・小規模校教育推進フォーラムは、新型コロナウイルスの影響により延期となっていました。12月3日(木)と17日(木)に開催が決定しました。



令和元年度第1回へき地フォーラム



平成30年度第1回へき地フォーラム

今回のフォーラムは、北海道教育大学各キャンパスからZoomによるオンラインでライブ発信します。職場や自宅などからパソコンやスマートフォン等を利用し参加できます。へき研ホームページから申込フォームを利用し、お申し込みください。 Zoomを視聴するための招待用URLとパスワードを開催前日までにメールでご案内します。当日URLをクリックし、パスワードを入力していただければ、参加可能です。皆様からの申し込みをお待ちしております。

今年度は、オンラインフォーラムで開催します!!

令和2年度

第18回へき地・小規模校教育推進フォーラム

テーマ 日本での未来の教育を創造するへき地・小規模校教育

【日時】 令和2年12月3日(木) 15:30~17:00・12月17日(木) 15:30~17:30

北海道教育大学各キャンパスからZOOMによるオンライン発信

【主催】 国立大学法人 北海道教育大学

【後援】 文部科学省・北海道教育委員会・全国へき地教育研究連盟・北海道へき地複式教育研究連盟・旭川市小学校長会・旭川市中学校長会・上川管内校長会・留萌管内小中学校長会・宗谷校長会

へき地・小規模校教育は、小規模性を生かし、様々な新しい教育活動を実践できる条件があり、日本の教育活動の先導実践となる可能性を有しております。本フォーラムでは、このへき地・小規模校教育の先導実践の可能性を捉えながら、日本の未来の教育の姿をへき地・小規模校を通して創造することを目的としています。

12月3日(木)

開催挨拶 北海道教育大学長 蛇穴 治夫

司 会 北海道教育大学

へき地・小規模校教育研究センター 副センター長 川前 あゆみ

I. 講演「新しい学校教育課程とへき地・小規模校に期待する実践」

講 師 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 学校教育官 石田 有記 氏

12月17日(木)

開催挨拶 北海道教育大学 旭川校キャンパス長 千葉 胤久

司 会 北海道教育大学 副学長 玉井 康之

II. シンポジウム

日本の未来の教育を創造するへき地・小規模校教育の可能性

1. 「地域と密着し過疎地域の未来を先導する北海道のふるさと教育の可能性」

パネリスト 北海道教育委員会 総務政策局長 池野 敦 氏

2. 「自律的な学習活動を先導するへき地・複式授業の理念と方法」

パネリスト 信州大学 学術研究院教育学系教授 伏木 久始 氏

3. 「個に応じた少人数学習と主体的な学習を先導するへき地・小規模校の教育」

パネリスト 北海道教育大学 旭川校へき研センター員 水上 丈実・渥美 伸彦

参加方法

事前に申し込みが必要です。下記のHP申込フォームからお申し込みください。

https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/forum/r02-01_edu_forum.html

本フォーラムは、オンライン会議システムZoomを使用します。招待用URL、パスワード等は開催前日までにメールで御案内をお送りします。

お申込みはこちら→



令和2年度「草の根教育実習」を創設しました。

【北海道の地方の学校教育の課題と「草の根実習」創設の経緯】

現在、北海道において、教員採用試験受験者の減少、へき地・小規模校に若手教員が定着しないこと、過疎地域における学校の急速な小規模校化や統廃合とともに地域全体が消滅の危機にあること等の課題があります。また、北海道教育大学においては、教員就職率の低下が課題となっています。

これらの状況に対応するため、北海道教育委員会との間で、「へき地校体験実習」等のへき地校での経験が教員就職率や教職意識の向上につながることで、将来的に地方の学校への定着に与える可能性があること等について、協議を行ってきました。

以上の経過を踏まえ、北海道教育委員会との協定に基づき、「草の根教育実習」を実施することとなりました。この事業は、北海道教育委員会が、北海道教育大学や市町村の地域創生部局と連携して、教員のやりがい再発見と地域の交流人口づくりを発展させる新たな教育実習のシステムとして実施するものです。

9月から実習先の公募を開始し、同月末には、42校の学校から受入可能な回答がありました。当該42校の学校に対し、5キャンパスの学生66人の応募があり、10月26日から草の根教育実習がスタートします。

「草の根教育実習」への参加人数

キャンパス名	参加人数(名)
札幌校	31
旭川校	11
釧路校	17
函館校	4
岩見沢校	3
合計	66



へき地校体験実習の様子

なお、今回、草の根教育実習に参加する42校のうち、「へき地校体験実習」で実習生を受け入れている学校は2校だけであり、他40校は北海道教育大学の学生を初めて受け入れることになります。

「草の根教育実習」は、釧路校で2週間実習する「へき地校体験実習Ⅱ」のような高度なへき地教育指導力を求める実習として位置付けているものではありません。しかし、学生への事前指導は、「草の根教育実習」として独自に実施しつつ、同時に「草の根教育実習」が「へき地校体験実習」の実績を生かすことができるように相互に連動させていきます。学生には関連させて意識付けしていくことも必要です。

新学習指導要領に合わせて『へき地・複式学級における学習指導の手引』改訂版作成の作業をしています。

平成31年3月に北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターが発行した『へき地・複式学級における学習指導の手引』の改訂版を、新学習指導要領に合わせて、発行することになりました。発行時期は、令和3年度3月を予定しています。

現在活用されている『へき地・複式学級における学習指導の手引』は、下記のURLよりダウンロードできます（PDF形式）

https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/public/duplex_guide.html



へき地・複式学級における学習指導の手引はこちらから→



ラオス人民民主共和国教育省が北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターの資料を指導書として承認!!

この度、ラオス教育省から、『へき地・複式学級における学習指導の手引き』を参考にして、ラオス国内の事業対象郡での試用版として承認されました。

これは、2年以上にわたって、北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター運営委員等が、ラオス人民民主共和国を訪問し、現地の複式授業指導を行うと共に、ラオスからの派遣団の視察を受け入れたことの成果が認められたものです。

今後、この『へき地・複式学級における学習指導の手引き』を使用して実施するトレーナー養成講座、教員研修、学校視察の結果を経て教育省に報告書を提出し、その内容が良ければ本承認となります。今後も、日本のへき地教育研究の成果が国際的にも広く役立つように、活動を進めていきたいと思っております。



本学教員団による
ラオスへき地校現地指導の様子

お知らせ

【北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター 運営委員新メンバーのご紹介】

10月に札幌校の宮原順寛先生と旭川校高瀬淳也先生がセンター運営委員に加わりました。

職名等	氏名	所属
センター長	玉井 康之	
副センター長	川前 あゆみ	釧路校
センター員	○池田 考司	札幌校
	花輪 大輔	
	◎前田 賢次	
	萬谷 隆一	
	宮原 順寛	
	○渥美 伸彦	旭川校
	笠原 究	
	勝本 敦洋	
	◎坂井 誠亮	
	高瀬 淳也	
	芳賀 均	
	谷地元 直樹	教職大学院
	水上 丈実	
	小渕 隆司	
	榑澤 実	
	○越川 茂樹	釧路校
◎境 智洋		
戸田 竜也		
半澤 礼之		
森 健一郎	教職大学院	

職名等	氏名	所属
センター員	石井 洋	函館校
	○小松 一保	
	坂本 紀子	
	山口 好和	
	◎阿部 二郎	函館校/教職大学院
	◎能條 歩	岩見沢校
へき地教育 アドバイザー	加藤 雅子	札幌校
	田中 和敏	旭川校
	吉田 亨	釧路校
釧路校キャンパス長	浅利 祐一	釧路校
運営協力委員 〔キャンパス長〕	田口 哲	札幌校
	千葉 胤久	旭川校
	五十嵐 靖夫	函館校
担当事務	小林 佳之	地域連携課
	堀北 昌宏	釧路校室
	酒井 義信	釧路校室総務G
	小野 幸郎	釧路校室総務G

※ ◎キャンパス代表 ○キャンパス副代表